

小さな生き物と一緒に

梅雨の晴れ間、プールではしゃぐ子ども達の声が園舎に響いています。

真砂白百合幼稚園の子ども達は、生き物が大好きです。毎朝のように、ダンゴ虫やバッカやカマキリなどを虫かごに入れて持って来ます。幼稚園でも外遊びの時間になると、フェンスや野菜畑の周りにいる虫を、我先に探し回る子ども達の姿が見られます。また、階段の下に置いてある敷板をひっくり返して虫を探す子ども達もいます。(ほとんどが男の子ですが・・・)

それぞれのクラスでは、アゲハチョウの幼虫やヤゴを飼って、成虫になるのを楽しみに世話をしています。ある日、年長さんと飼育しているさなぎがアゲハチョウになりました。ひまわり組のアゲハチョウはさなぎから出るときに羽を傷つけたのか、片方の羽が折れていました。子ども達はその状態を見て、上手に飛ばないことがすぐわかりました。そこで、みんなは公園の生い茂る草の中にそっと放してあげました。「元気に暮らすんだよ。」「鳥さんに見つからないようにね。」と言いながら別れました。何日かしてそのチョウチョが幼稚園に水を飲みに来たところを見つけた子どもがいました。「元気でよかった。」とほっとしていました。バラ組のアゲハチョウは元気に生まれてきたので、みんなで空に放しました。「お父さん、お母さんに会えるといいね。」「また遊びに来てね。」といつまでもアゲハチョウとの別れを惜しんでいました。アゲハチョウは、緑が生い茂る木の中に吸い込まれるように飛んでいきました。今日は、ヤゴがトンボになり、オタマジャクシがカエルになりました。

「小さなさなぎの中にどのように羽や体が入っているのか」「どうして幼虫と成虫の姿が違うのか」「さなぎから出る時大変そうだな」などなど、子どもたちはたくさんの不思議を感じながら、小さな命を見つめる日々です。感動もたくさん味わえます。このような体験の積み重ねが、自分の命を大切に、友達を大切にすることにつながると思っています。

まだこれからも、それぞれのクラスで、色々な生き物が誕生する予定です。子ども達が輝く瞳で命の誕生を見つめる姿に出会えることを私は楽しみにしています。

7月の行事予定

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
	年長休園	年少休園	園舎全面個人面談 午前保育			(休)
8	9	10	11	12	13	14
(休)	年中休園 弁当終了	給食終了 プール納め	預かり終了 午前保育		卒業 宿泊保育 年中・年少休園	
15	16	17	18	19	20	21
(休)	海の日	終業式	夏期預り保育			(休)
22	23	24	25	26	27	28
(休)		夏期預り保育				(休)
29	30	31				
(休)	夏期預り保育					



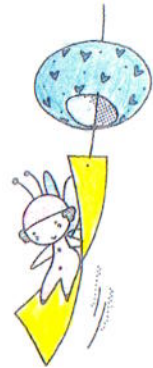
お知らせ

- 幼稚園からのお知らせ、手紙がファイルにはさまったままの方が見受けられます。大切な手紙もあります。必ず毎日確認してください。
- プール活動が間もなく終了いたします。天候の良い日は少しでも多くプールに入りたいと思いますので、プールカードに押印を忘れないようお願いいたします。
- 預かり保育は11日(水)迄です。(個人面談中、預かりの方はお弁当を持たせてください)

夏期に向けての節電・節水対策について!

昨年に比べさらに暑さが厳しいとの事、自分で出来る節電・節水対策を!

- ① 使用しない部屋の照明はこまめに消す。
- ② エアコンの温度は、通常の1〜2度高めに設定する。
- ③ ブラインド、遮光カーテン等で日射を遮りきめ細かな管理を行う。
- ④ 使用していないプラグは抜く。
- ⑤ その他、緑のカーテンの利用(朝顔等を育てる)。
- ⑥ 水は出しっぱなしにせず、こまめに止める。
幼稚園でも、子どもたちと共に身近に出来る事から節電・節水に取り組んでいます。ご家庭でも節電・節水について家族で考えてみましょう。



※夏期に食中毒が多発します!

細菌性食中毒を予防するために、以下の食中毒予防の三原則を守り、食中毒を防ぎましょう。

- ① 付けない(洗う)
手にはさまざまな雑菌が付着しています。食中毒の原因菌が食物に付かないように、トイレの後、おむつ交換後、鼻をかんだ後、動物に触れた後、食卓に付く前などは必ず手を洗いましょう。
- ② ふやさない(低温で保存する)
細菌の多くは高温多湿な環境で増殖します。10℃以下で増殖が遅くなり、-15℃以下で増殖が停止します。食品は早く冷蔵庫に入れましょう。
- ③ やっつける(加熱処理)
ほとんどの細菌やウイルスは加熱によって死滅しますので、食品は加熱して食べましょう。

♪ 怒られるからしない・・・!? ♪

子どもがお母さんやお父さんにべたべたくっついて甘えたり、いたずらしたり、ちょっと乱暴な事をしてみたりして愛情を確かめようとすることがあります。信頼しているからこそ出来るのです。そんな時、はねつけられてしまう怒る相手にはありのままの自分を出せません。怒る人の前では怒らせないようにいやがることはしないだけなのです。このような大人は子どもに上から厳しく対応すれば言う事を聞く子になると思っっていることが多いです。これでは飽えずこわい人がいなければ、ルールを守れないこととなります。厳しく抑えこんでしまえばその場は一見治まったように見えますが、その子どもにとっては人に対する不信感をうえつけることになりかねません。本来は子どもたちが自分を自由に出す中で、不都合を感じた時、どうしたらよくなるかを大人や友だちと考え、自らルールを守れる子になっていくことが大切じゃないかと思えます。嫉は迷惑をかけないためにあるもので、怒られるから守るものではないということを再認識していけたらいいと思います。